

古天文学の紹介

2025年9月6日（土） 星のソムリエ何でも情報交換会

にい よしえ
新居 由恵

古天文学とは

- ◇ 齊藤国治による造語
- ◇ 古天文の学（not 古い天文学）
- ◇ 天体の位置・運行を古代に遡って計算→史料の内容を検証
 - ◇ 年月日のある天文記事→計算結果と比較→誤謬の発見→復元可能
 - ◇ 不備がある天文現象の記述→当時の天象を原文より詳しく再現可能

紹介する書籍



エピソード① 天文博士安倍晴明は見た！

寛和二年六月二十二日（986年7月31日） 寛和の変

藤原兼家 孫の懷仁親王を帝位に就けるため花山帝を退位させたい

花山帝 寵愛していた女御をなくし失意の底

藤原道兼（兼家の三男） 帝と一緒に出家しようと誘う

御所→土御門大路→安倍晴明宅前→花山寺

兼家「両親に最後の別れを」と剃髪直前に抜け出し戻らず

頭を丸めた花山法皇 騙されたと気づく

懷仁親王即位→一条天皇 外祖父・兼家→摂政



帝おりさせたまふと
見ゆる天変ありつるが、
すでになりにけりと
見ゆるかな…。

『大鏡』

“当日の深夜、花山天皇が御所から花山寺に行く途中、
晴明の家の前を通ったときに、晴明は
「帝の退位を示すような天変があったが、
ことは既に終わってしまったようだ」
と叫んだと記されています。
帝の退位を示す天変とは、一体何だったのでしょう？”

(p109)

木星のてんびん座 α 星への犯（接近）

986年7月31日22時

海王星

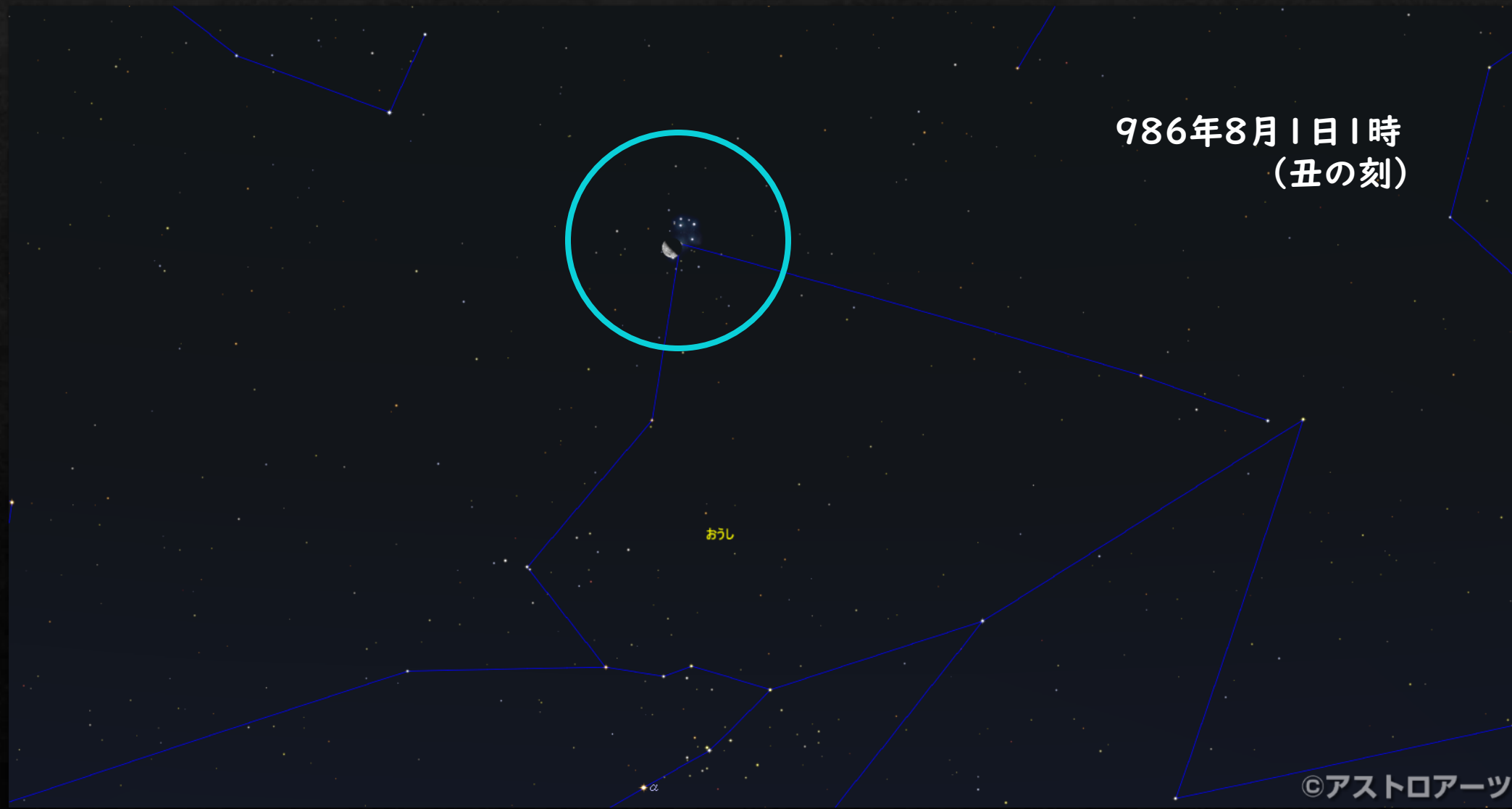
さそり

丑の刻（8月1日1～3時）
地平線の下に沈んでいる

てんびん

★ 木星

半月がすばるを隠す



“ベテラン観測家の晴明は、すでに数日前から木星の犯が起こることも
すばる食が起こることも予知していた。
彼はこの二つの天変がこの夜起こることを帝に奏上すべきなのに、
藤原兼家・道兼父子に密告した。彼らは大喜びで、帝に退位を強く勧めた。
帝も星のお告げならやむなしと、しぶしぶ出家を決意した。
晴明は予報が両方とも当たり、帝がすでに退位したのを確認してから、
役目上の義務として報告に行こうとした。
そうならば晴明はこのクーデターの加担者ではないか……さて真相は？”

大河ドラマ『光る君へ』第10回「月夜の陰謀」



エピソード② ヒミコ女王国の興亡

◇ 天岩屋戸伝説＝皆既日食

◇ 「魏志倭人伝」

正始八年（247年）卑弥呼の要請により魏使が邪馬台国にやって来たが、間もなく卑弥呼は没した。

◇ その頃に日本で見られた日食

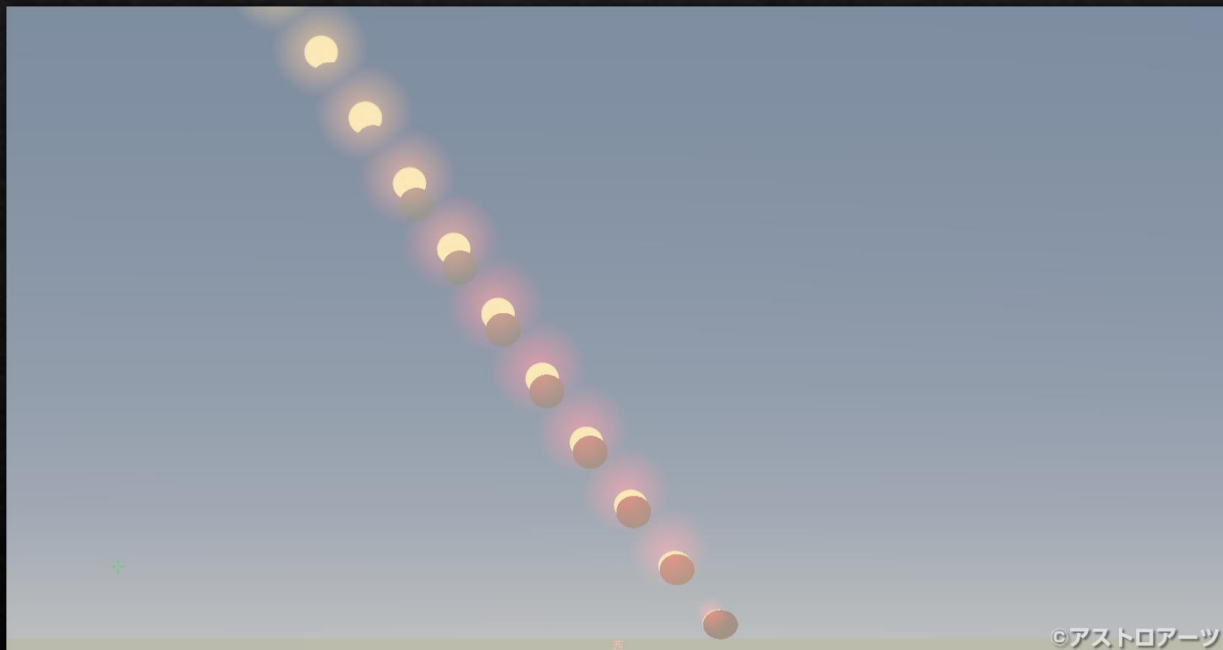
◇ 247年3月24日

◇ 248年9月5日

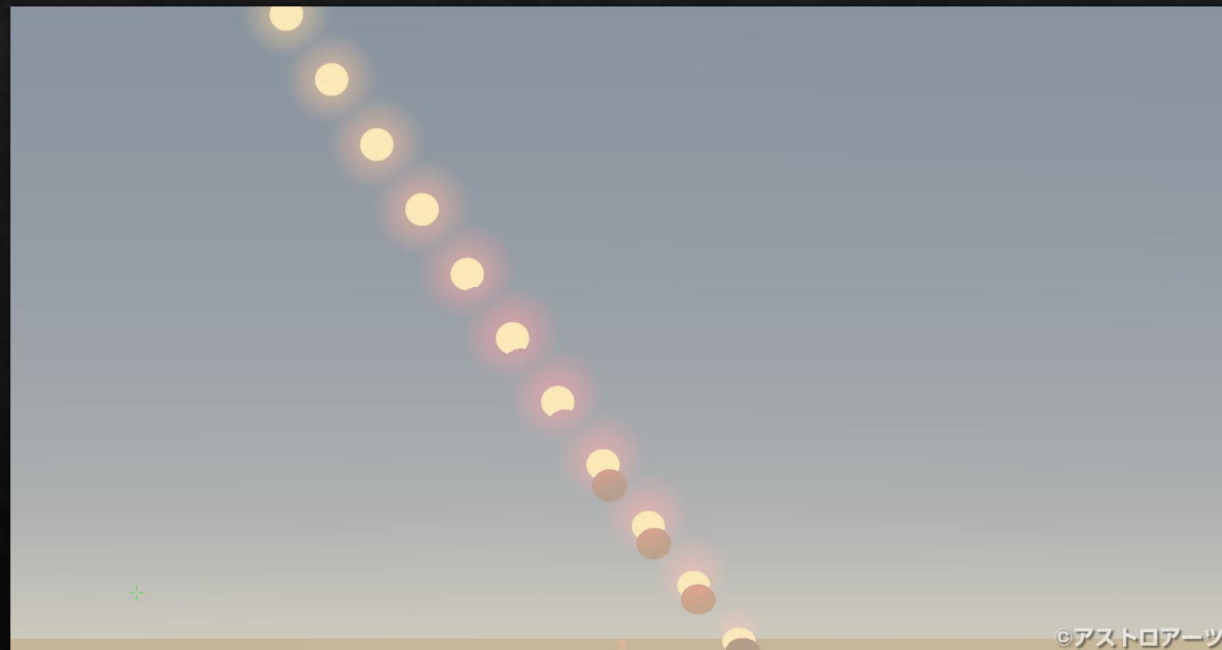


(p16-19 本文要約)

247年3月24日 夕方

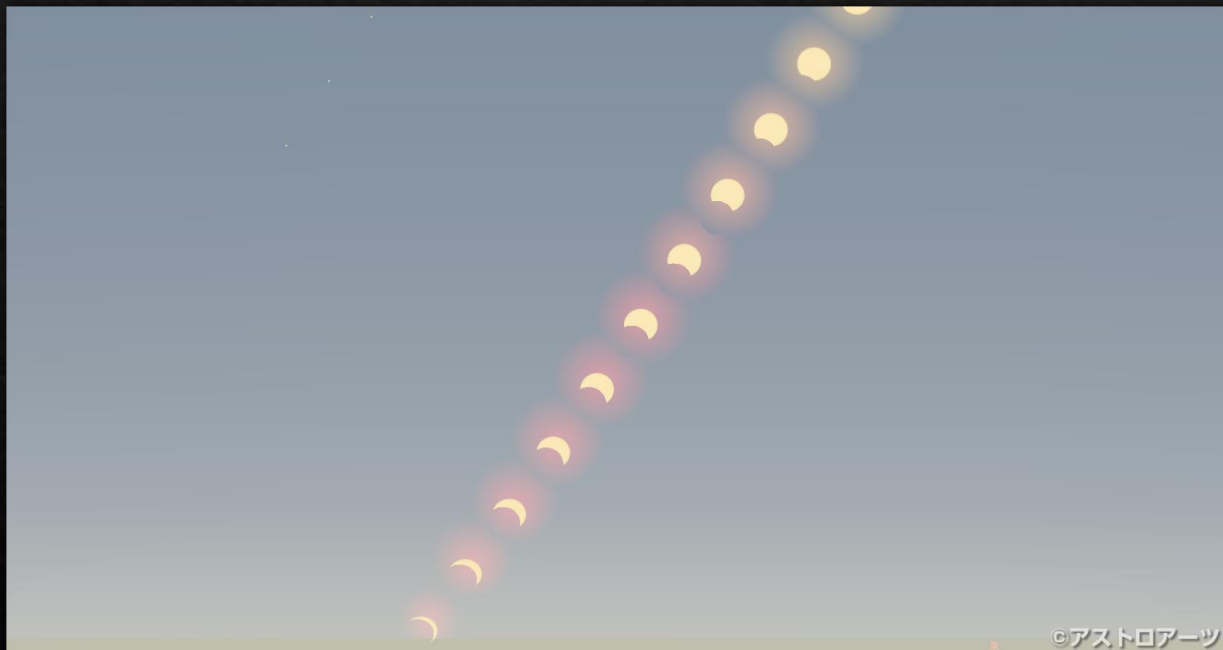


福岡

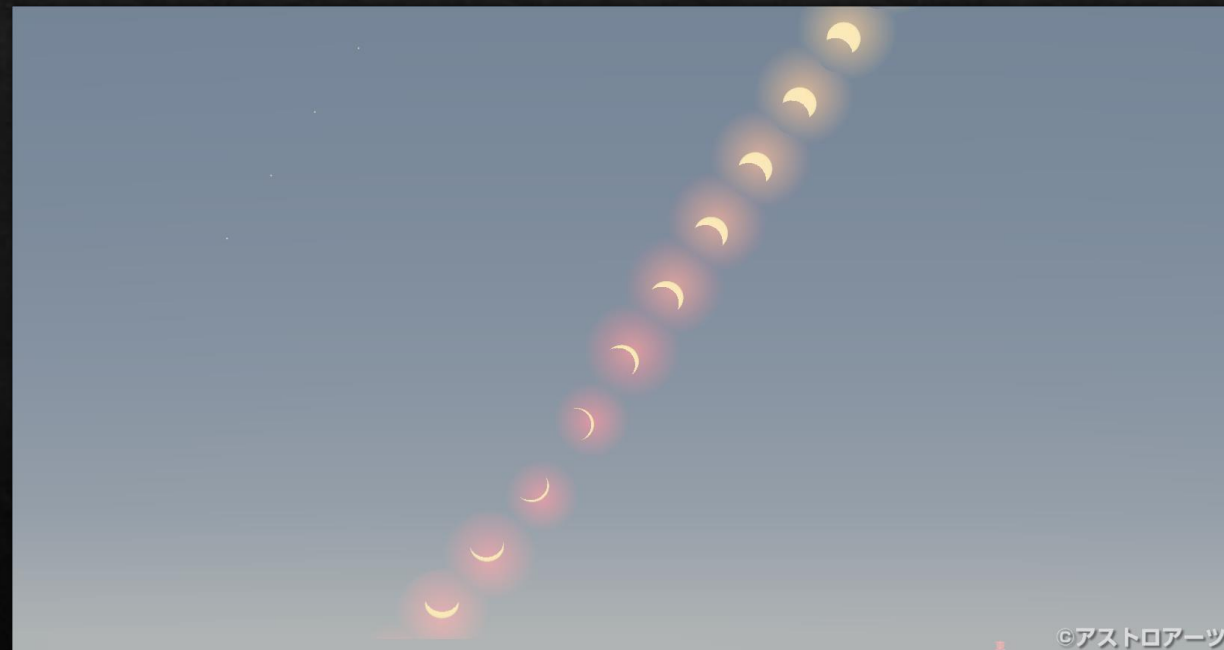


飛鳥京

248年9月5日 早朝



福岡



飛鳥京

◇ 247年3月の日食

=ヒミコの死・アマテラスの天岩屋戸隠れ

◇ 248年9月の日食

=トヨの擁立による平和回復・アマテラスの再出現

⇒邪馬台国は日食がよく見えた北九州にあったという説が有利

(p20-21 本文要約)



『日本書紀』卷第二十二「日有蝕尽之」

→628年4月10日の日食（日本最古の日食の記録）

“ここで注目したいことは、皆既かどうかというよりも
日食の五日後に推古女帝が亡くなっているということです。
さあ、なんかアヤシイですね。

このとき人々の間に「かつて推古と同じように群臣に共立され、
日食とともに亡くなった女王がいた」という微かな伝承が
蘇ってきたのではないのでしょうか？”

(p22-23)



“「何回も起こった日食の記憶とそのときの女王、
すなわち初代ヒミコから推古天皇までの記憶が
すべて重なって伝えられ、七世紀末にアマテラスの伝説に
まとめられた」と考えたほうが自然ではないでしょうか。”

(p32)



ちょっと待って
それは無理がある気がする

詳しい人に聞いてみた

『日本書紀』について

- ◇ 外国に日本が「天皇が統治する由緒正しい国」だと示す歴史書
- ◇ 中国の歴史書『漢書』『三国志』などを典拠史料として用いている
（「魏志倭人伝」は『三国志』の一節）
- ◇ 天孫降臨以前の神々の伝承を語る「神代紀」＋天皇の系譜と事績を並べた「天皇紀」

天岩戸伝承

◇ 神代紀の伝承

1. 具体的な出来事を比喩表現したものとする説
2. 当時行われていた宮中行事の由緒とする説

→ 「天岩戸＝日食」とは限らない点に注意

“「日食を意味する（かもしれない）記事」であって

「日食であることを主張する記事ではない」”（『天文月報』第95巻 p27, 2002年）

◇ 推古天皇36（628）年の日食→推古天皇崩御の記事が天文現象の初出

→日食を天皇の交代を示唆する「縁起の悪い」現象として表現

「魏志倭人伝」について

- ◇ 『三国志』「魏志」で周辺異民族を扱う「東夷伝」の「倭人条」を指す
- ◇ 朝鮮半島の東にある「倭国」について記載
- ◇ 魏の使節団が訪ねた「奴国」「伊都国」から、中心となる「邪馬台国」の存在を知る
- ◇ 内戦（倭国大乱）を平定した女王「卑弥呼」→敵対国との争いのさなかに命を落とす
- ◇ 没年は248年とされるが、日食や死の原因について言及はない
- ◇ この頃は『日本書紀』では崇神天皇の治世下とされる
- ◇ 邪馬台国や卑弥呼について言及なし⇒天皇の皇統とは無関係として無視？

- ◇ 日食は王朝や天子の交代を示唆する「縁起の悪い」現象
- ◇ 「天岩戸」はハッピーエンドの伝承の可能性 ⇒ 「天岩戸＝日食」とは言い切れない

- ◇ 天岩戸伝承の由来が248年の日食と仮定
⇒以後628年まで天文現象への言及が一切存在しないのは不自然

- ◇ 卑弥呼の死の前後に九州で日食が観測できた可能性はあるが、
その事例を以て「邪馬台国が九州にあった」とは言い切れない

- ◇ 現代の人々は『日本書紀』『魏志倭人伝』『算出された天文現象』を同時並行で参照
- ◇ 当時の編纂者とは視野が異なる点に注意
人間は「自分が見たい情報」に目を向けがち

247 日食（『三国志』魏志本紀）

248 日食

248? 卑弥呼 死去（「魏志倭人伝」）



380年 天文現象の記録なし

628 日食

628 推古天皇 崩御



75年

祖父母の目撃談を聞けるかも

703 持統天皇崩御

720 日本書紀完成

約100年

邪馬台国・卑弥呼の日食

247年の皆既日食＝岩戸日食

⇒卑弥呼の死亡年＝247年、邪馬台国@北九州

“しかし、このような重大なことを
日食だけで裁断を下すのは躊躇せざるを得ない。
歴史学上および考古学上の意見も大切であり、
いやむしろそのほうをより重要な証拠とすべきだろう。”

(p23)



注意

- ◇ CGで日食が描画されると「絶対正確な結果」と思いがち
- ◇ 現代の日食…予報計算は十分精密な結果を保証する
- ◇ 1000年以上前の日食…
月の運動の不正・地球の自転速度の減衰など
計算に使う天文要素の値が未確定⇒計算結果に異同
どれが正しい／誤りが決められない

(p7 本文要約)



古天文学は興味深いけど…

- ◇ 天文学的な計算ありきの解読には気をつけよう
 - ◇ 地球・月・太陽の運動の物理的な条件が現代と違う可能性
 - ◇ 観測基準や記録が曖昧な可能性
- ⇒ 人文学的な文献の解釈と合わせて補強する必要あり
- ◇ 現代日本人の感覚で伝承・文献と天文現象を安易に結びつけるのは危うい
- ⇒ 当時の文化的背景・宗教観などを学び、敬意をもって慎重に考えよう